

東テックグループ 2026年3月期決算 補足資料

東テック株式会社

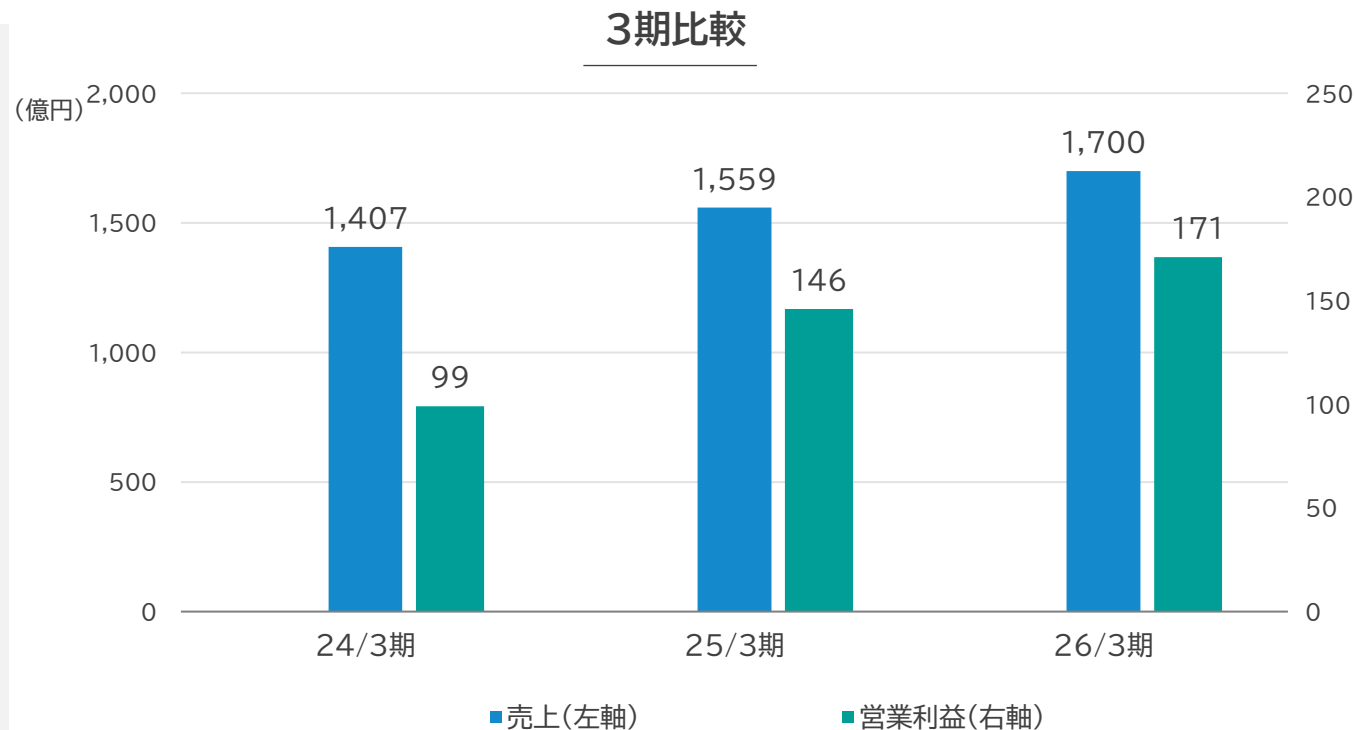
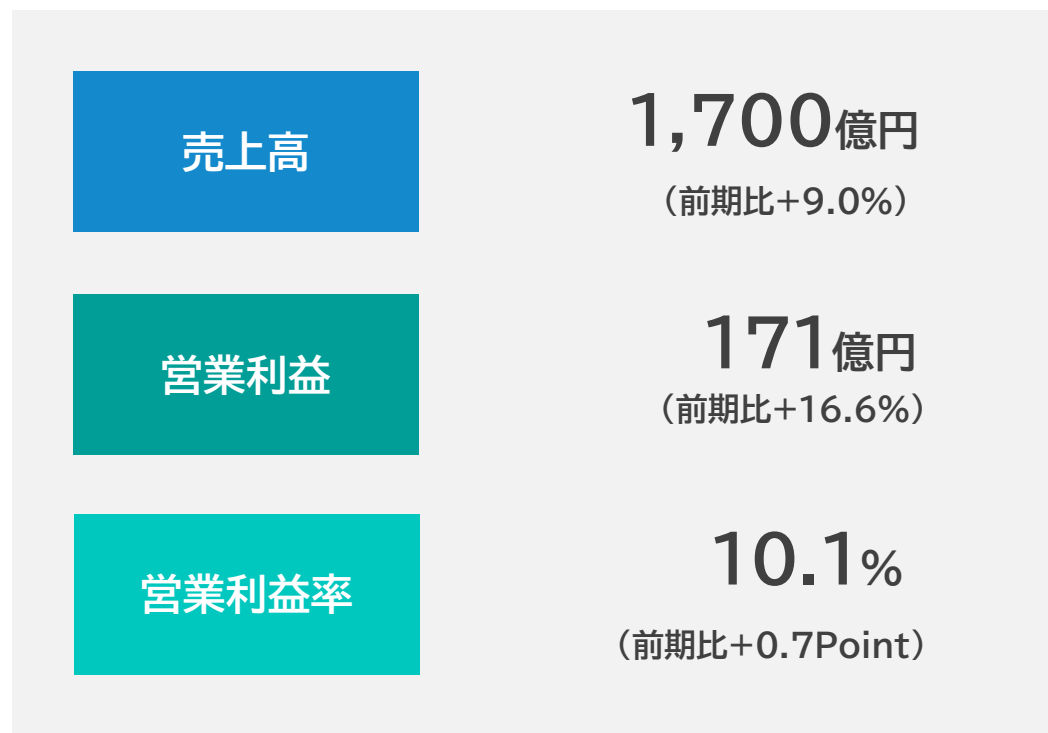
2026年5月14日

Totech Group

ここちよい未来をアシスト

業績：通期計画を過達し、過去最高の売上高・利益

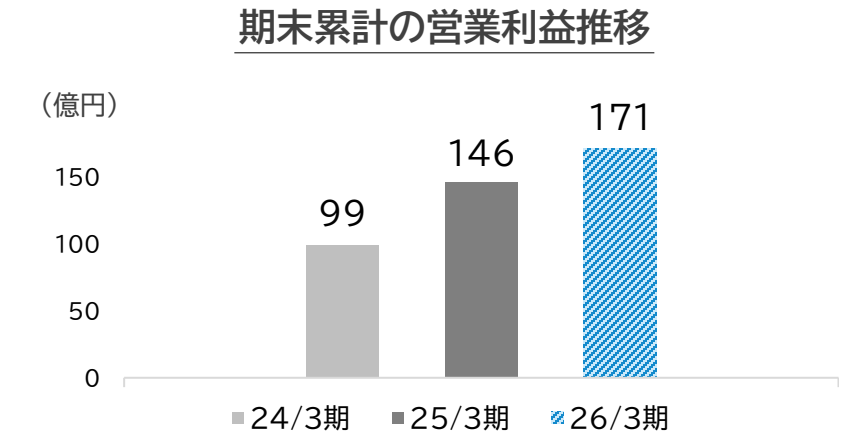
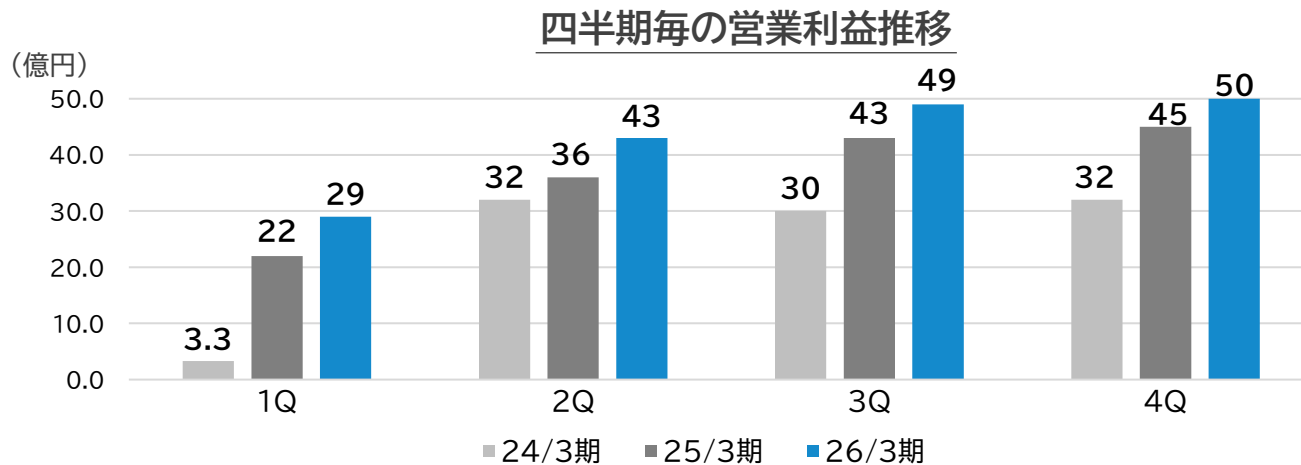
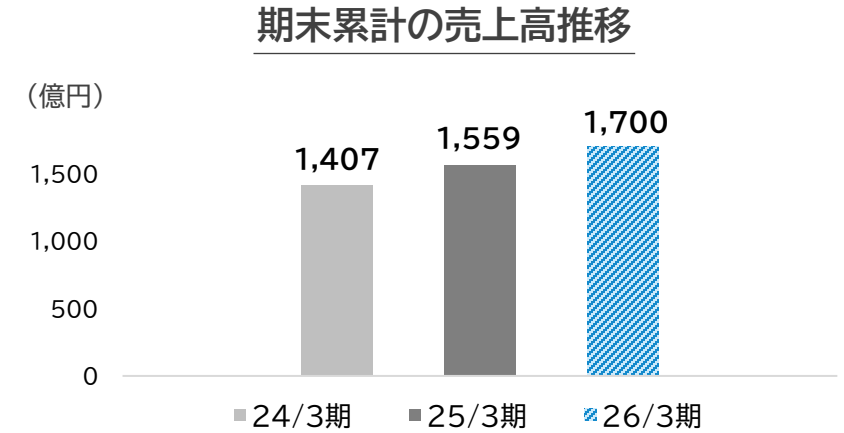
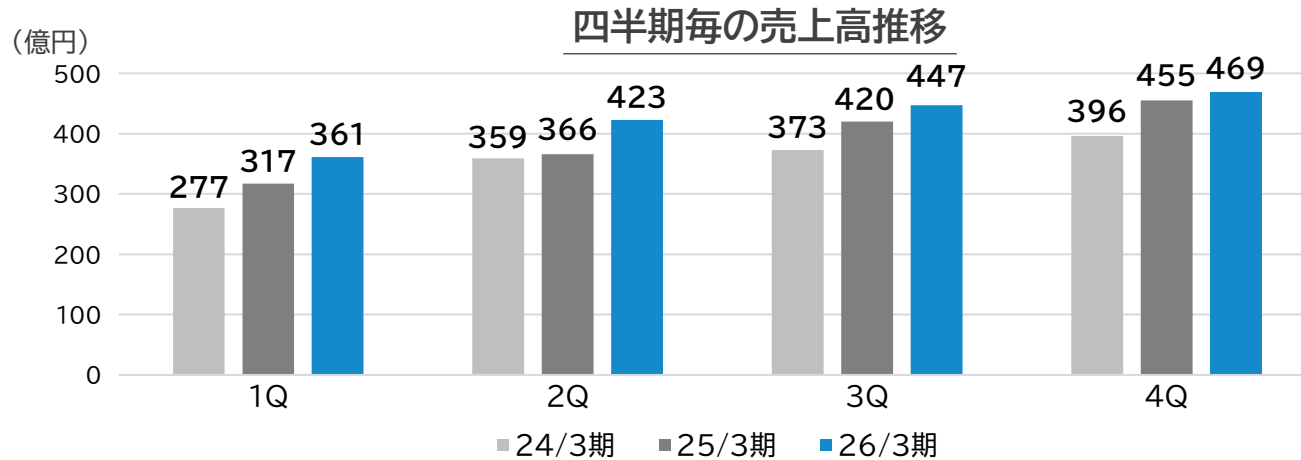
- 大都市を中心とした再開発の新築需要に加え、民間投資案件(データセンター、工場、ホテル等)や官公庁案件の需要取り込みにより商品販売・工事両セグメントともに売上高伸長。特に工事セグメントが二桁増(前期比+16.8%)となった。増収効果に加え受注時採算の改善により商品販売・工事セグメントともに売上総利益率も改善し全体の利益増に貢献
- コア3事業ともに増収となり、特に計装・エネルギー事業の売上が二桁増となった。(空調事業前期比+3.6%、計装事業同+15.2%、エネルギー事業同+32.7%)
- 受注高、受注残も好調を継続



- 売上高・各段階利益ともに業績予想を過達し過去最高値となった
- 旺盛な需要の中で、採算を重視した工事案件の増加が牽引。営業利益は171億円で前期比+16.6%となり、営業利益率も0.7ポイント改善、10.1%となった。経常利益は179億円、当期純利益も131億円と過去最高益となった

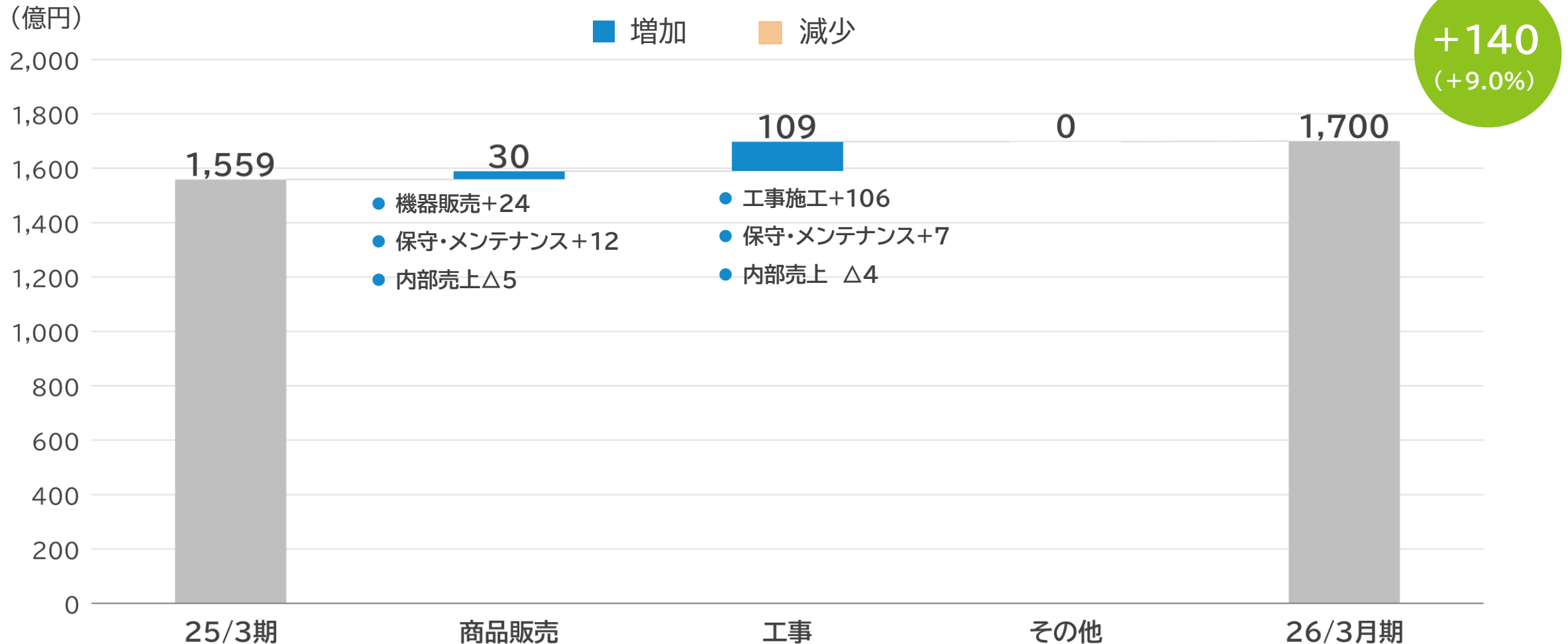
(億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	利益率 %	前期比 増減額 %	公表予算比 増減額 %
売上高	1,407	1,559	1,700	—	+140 (+9.0%)	+40 (+2.4%)
営業利益	99	146	171	10.1%	+24 (+16.6%)	+11 (+7.0%)
経常利益	105	155	179	10.6%	+24 (+15.5%)	+11 (+7.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	111	131	7.7%	+19 (+17.3%)	+11 (+9.4%)

- 各四半期ベースで売上高・営業利益ともに過去最高で推移
- 継続的に受注時採算の改善を推進中。売上高、営業利益ともに4Q偏重から通年平準化ベースに段々と改善傾向



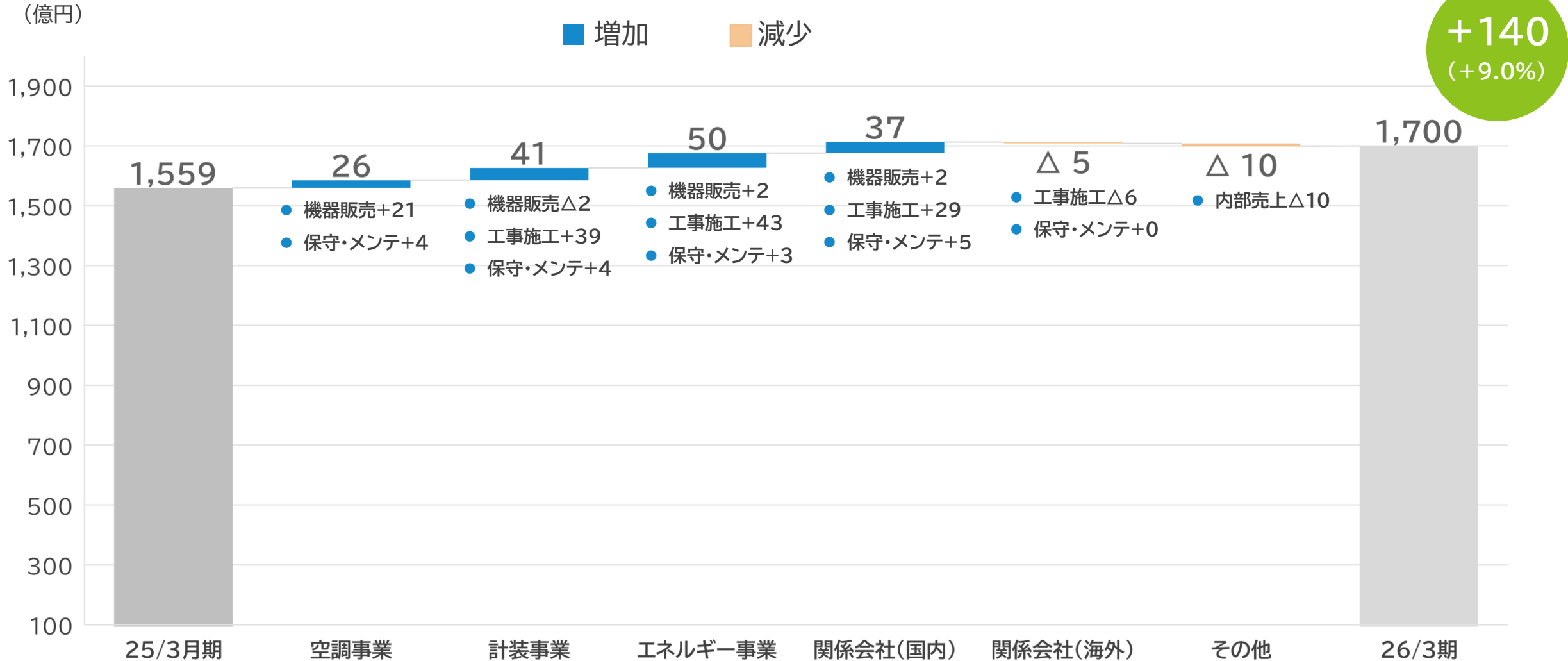
売上高増減要因(セグメント別)

- 商品販売セグメントにおいては、機器販売と保守・メンテナンスが増加し30億円の増収
- 工事セグメントは、計装事業とエネルギー事業の工事施工により109億円と大幅増収。商品販売・工事セグメントともに保守・メンテナンスについて、増収基調は変わらず

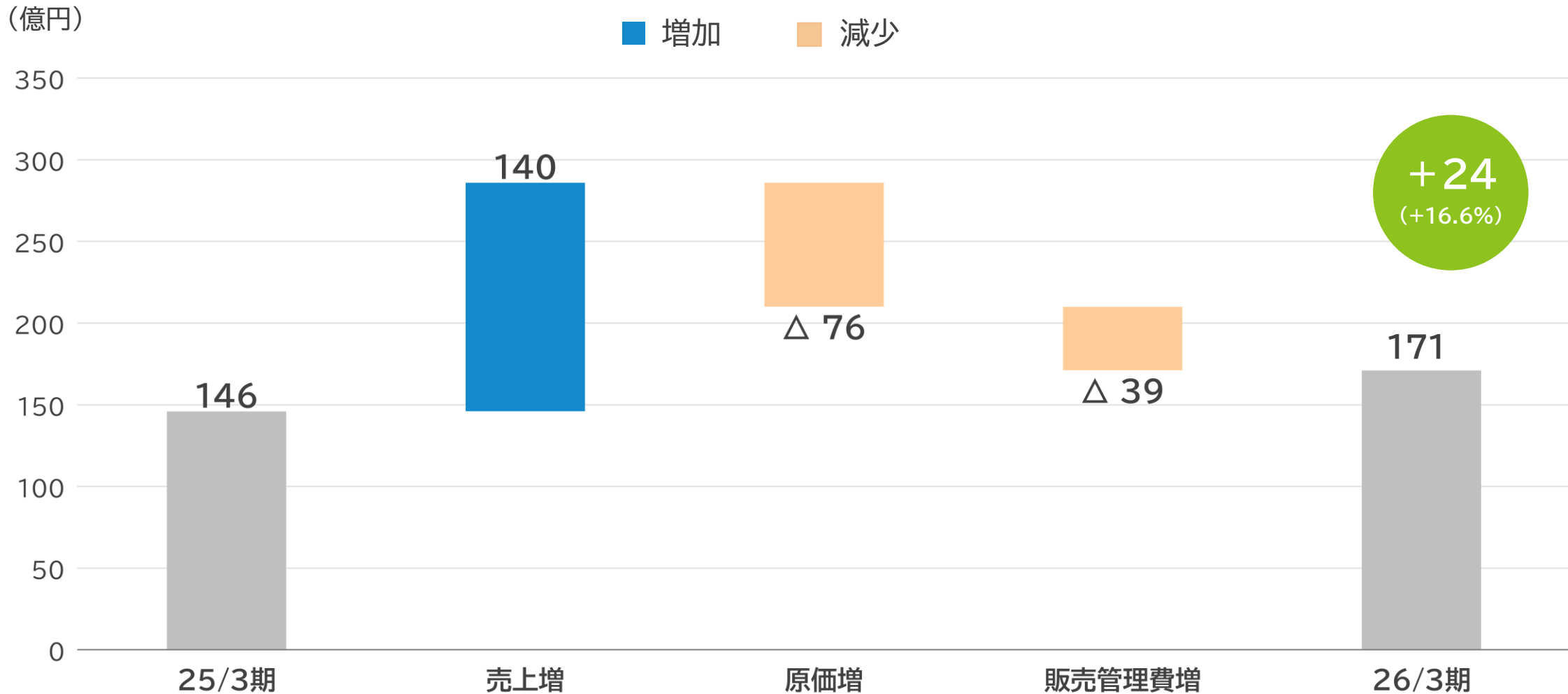


売上高増減要因(事業別)

- エネルギー事業が大幅に伸長し、他のコア事業の空調事業、計装事業の増収に加え国内グループ会社も順調に推移
- 工事施工に関しては、計装事業、エネルギー事業、国内グループ会社ともにバランスよく増加、保守・メンテナンスも各事業で伸長



- 売上の増加(前期比+9.0%)に加え、売上総利益の改善により販売管理費のコスト増加分を吸収し前期比+24億円の増益
- 販管費においては、ベースアップ増加による人件費増があったものの、増収と売上総利益率の改善(+1.5ポイント)で営業増益



収益分解情報(セグメント別)

- 商品販売セグメントは前期比+3.4%と堅調に推移。工事セグメントは前期比16.8%と大幅に伸長し、全体の売上増と売上総利益率改善に貢献
- 保守・メンテナンスについても、商品販売・工事セグメントともに堅調に拡大

(億円)	2025年3月期	2026年3月期	
	売上高	売上高	前期比%
商品販売事業	906	937	+3.4%
機器販売	784	809	+3.1%
保守・メンテナンス	167	179	+7.2%
内部売上	△45	△51	-
工事業	652	761	+16.8%
工事施工	540	647	+19.7%
保守・メンテナンス	113	120	+6.3%
内部売上	△2	△6	-

収益分解情報(事業別)

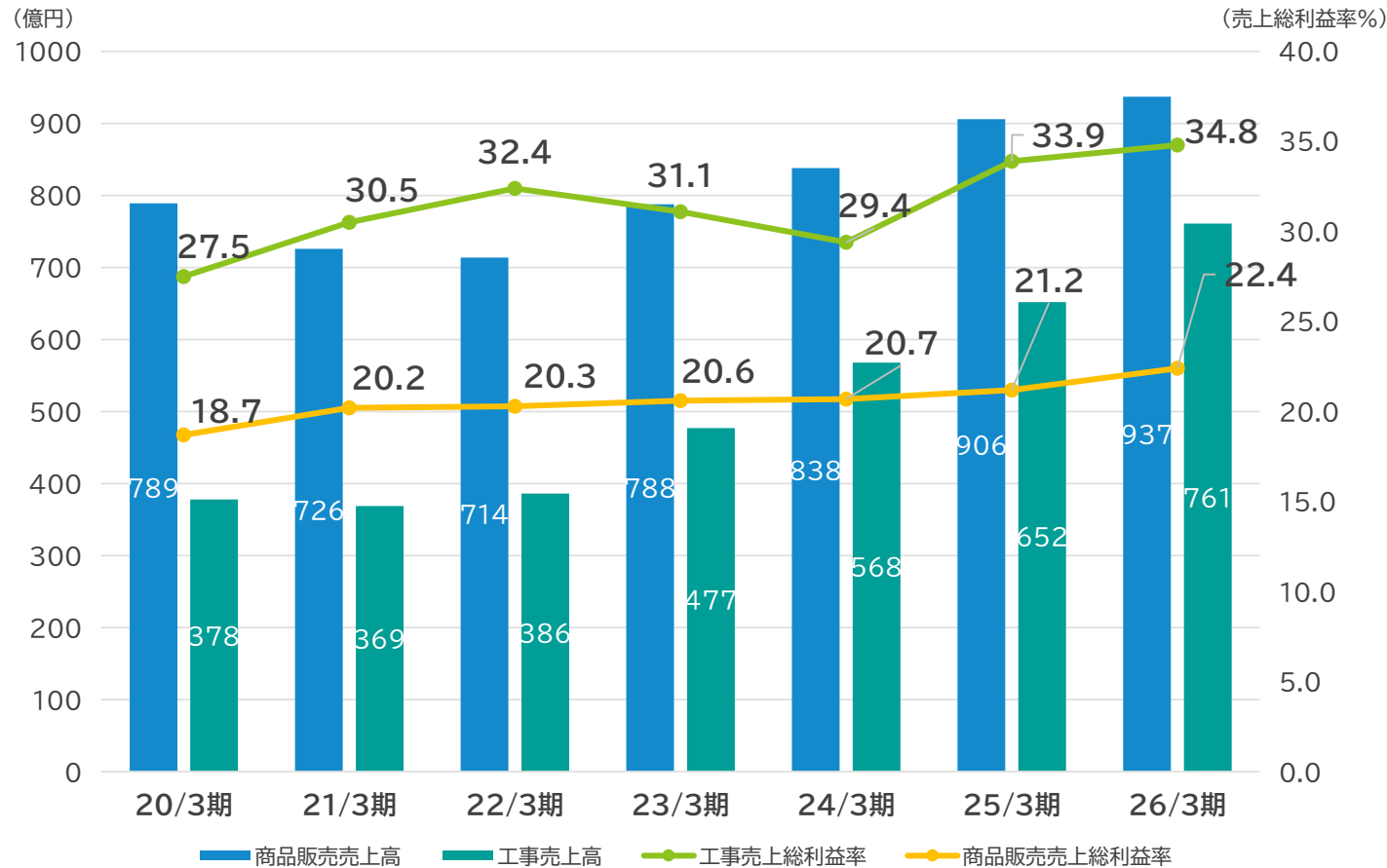
- コア事業が堅調に拡大、特に計装事業の+15.2%の伸びに加えエネルギー事業が+32.7%と大きく伸長
- 国内グループ会社も増収となり、海外グループ会社のみ微減となった

	2025年3月期	2026年3月期	
	売上高(億円)	売上高(億円)	前期比
空調事業	723	749	+3.6%
機器販売	687	709	+3.1%
保守・メンテナンス	35	40	+12.8%
計装事業	274	316	+15.2%
機器販売	13	11	△19.9%
工事施工	224	263	+17.7%
保守・メンテナンス	36	41	+13.1%
エネルギー事業	154	205	+32.7%
機器販売	23	26	+12.5%
工事施工	97	141	+44.7%
保守・メンテナンス	33	37	+11.8%
関係会社(国内)	392	430	+9.6%
機器販売	59	62	+4.9%
工事施工	181	211	+16.3%
保守・メンテナンス	151	156	+3.4%
関係会社(海外)	61	56	△8.7%
工事施工	37	31	△16.5%
保守・メンテナンス	24	24	+3.5%
内部売上	△47	△57	-

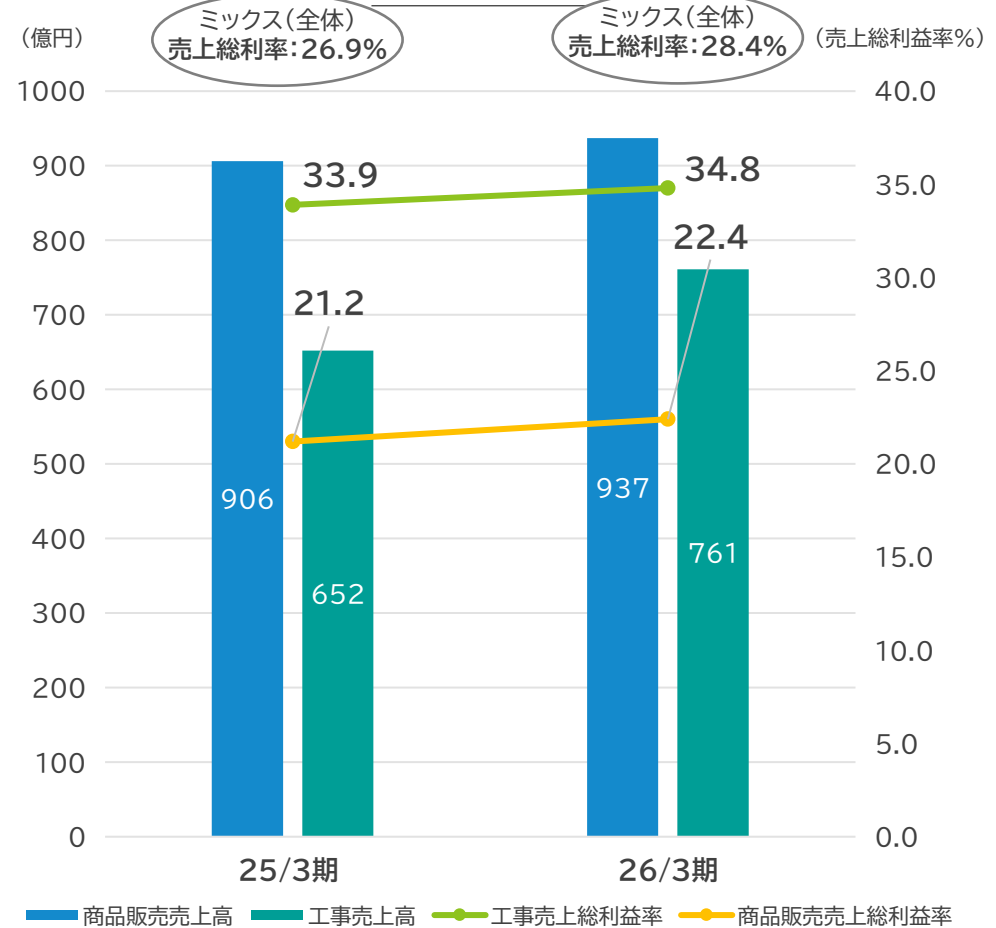
売上高・売上総利益率推移(セグメント別)

- 全社の売上総利益率は28.4%となり、前期比+1.5ポイントの改善
- 商品販売セグメント並びに工事セグメントともに増収となり、両セグメントともに売上総利益率の改善となった

過去7年推移



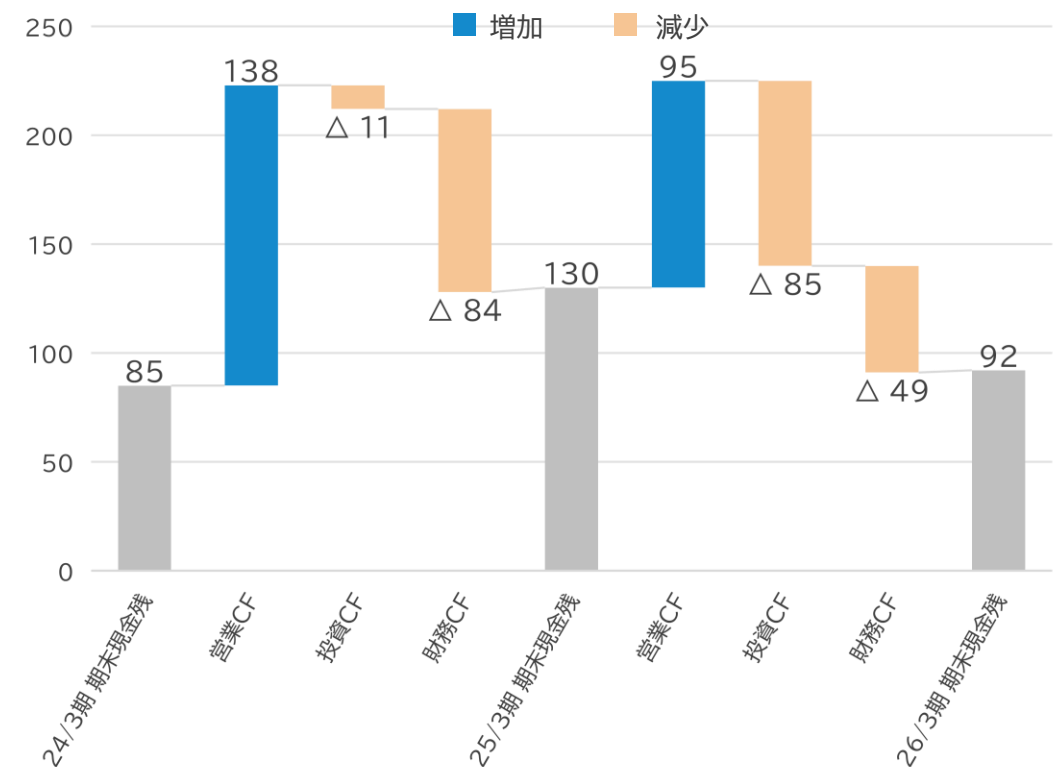
前期比較



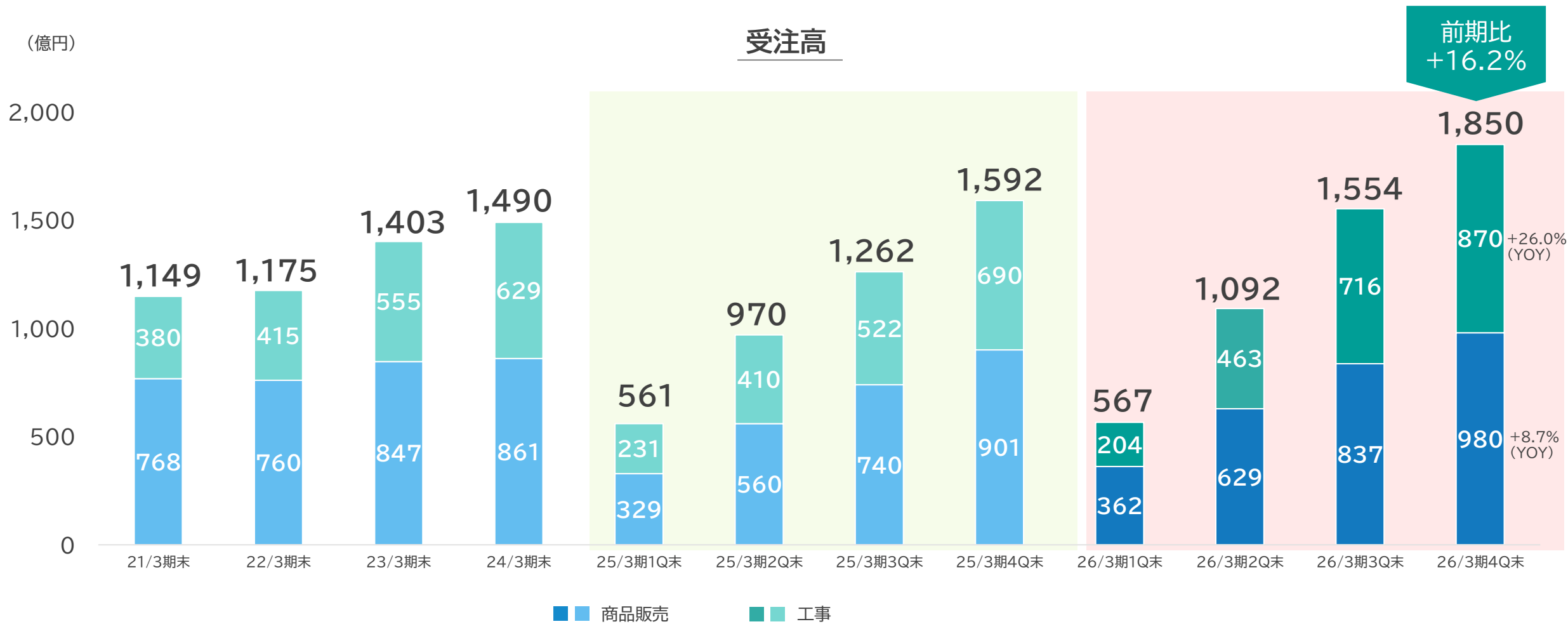
貸借対照表 及び キャッシュフロー

(億円)	2025年3月期	2026年3月期	増減額
流動資産	602	563	△39
現預金	130	113	△17
受取手形及び売掛金及び契約資産、電子記録債権	408	397	△11
棚卸資産	46	37	△8
その他	17	14	△2
固定資産	449	587	+138
有形固定資産	209	264	+54
無形固定資産	29	36	+6
投資その他の資産	210	287	+76
総資産	1,052	1,151	+98
流動負債	392	346	△45
支払手形及び買掛金、電子記録債務	232	155	△77
短期借入金 + 長期1年以内借入金	29	49	+19
その他	129	141	+12
固定負債	47	67	+19
長期借入金	8	3	△4
その他	39	64	+24
純資産	612	736	+124
株主資本合計	526	597	+71
その他包括利益累計等	86	138	+52
負債純資産合計	1,052	1,151	+98
自己資本比率	58.2%	64.0%	+5.8%

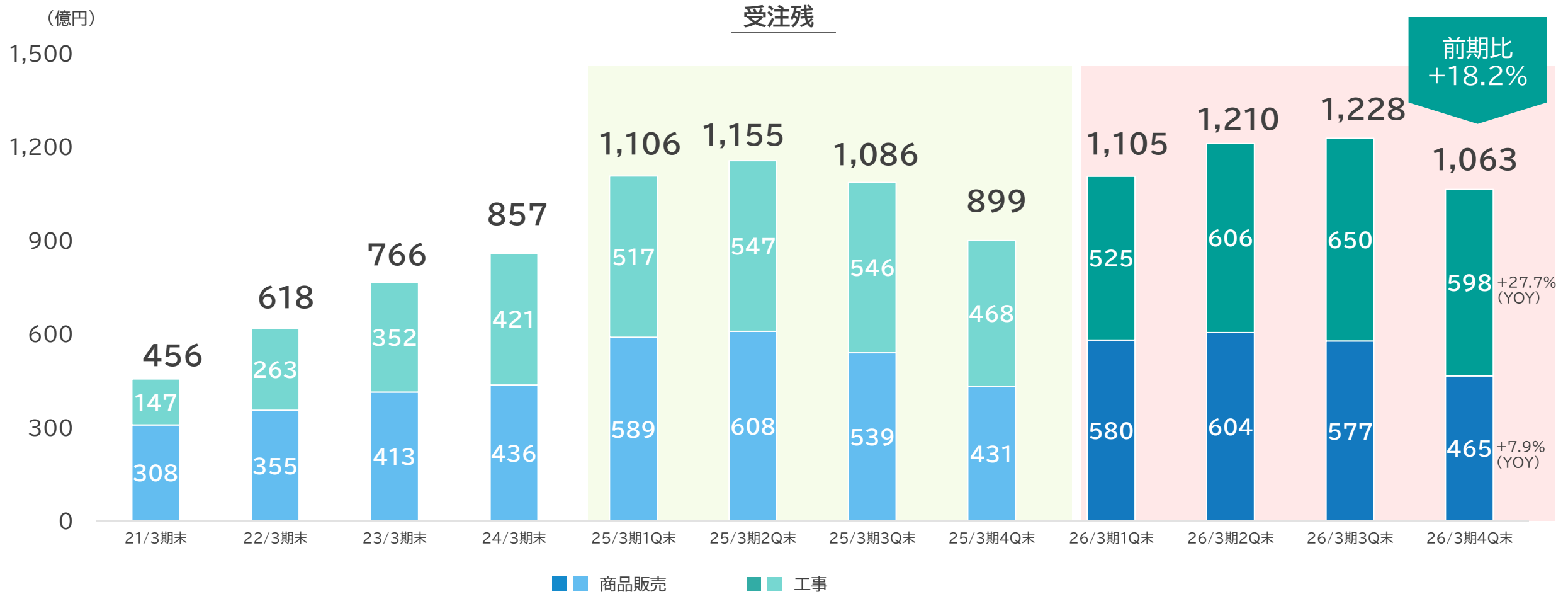
(億円)	2025年3月期	2026年3月期
営業CF	138	95
投資CF	△11	△85
フリーCF	127	10
財務CF	△84	△49
現金等残	130	92



- 供給面も勘案した戦略的な受注獲得により受注高も順調に推移(受注高は前期比+16.2%)
- 売上総利益率の高い工事セグメントの受注高が前期比+26.0%と好調に推移(商品販売受注高は前期比+8.7%)



- 供給面も勘案した戦略的な受注獲得により受注残も堅調に推移(受注残は前期比+18.2%)
- 売上総利益率の高い工事セグメントの受注残が前期比+27.7%と好調に推移(商品販売受注残は前期比+7.9%)



(億円)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	増減率
売上高	1,700	1,800	+5.9%
営業利益	171	180	+5.1%
経常利益	179	185	+2.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	131	137	+4.3%

【事業環境見通し】

当社グループを取り巻く建設業界は都市部を中心に大型の再開発案件が継続されるものと期待されますが、原価の上昇や物流コスト増が予想されます。また、社員のモチベーション向上や優秀な人財獲得を企図しグループとして給与水準を引き上げるため販管費の増加を見込んでおります。経営環境は不透明な状況が続くことが見込まれますが、今期発表の第2次中期経営計画にもとづく事業拡大方針の実行により、増収・増益を目指してまいります。

株主還元 これまでの配当実績と当期予想

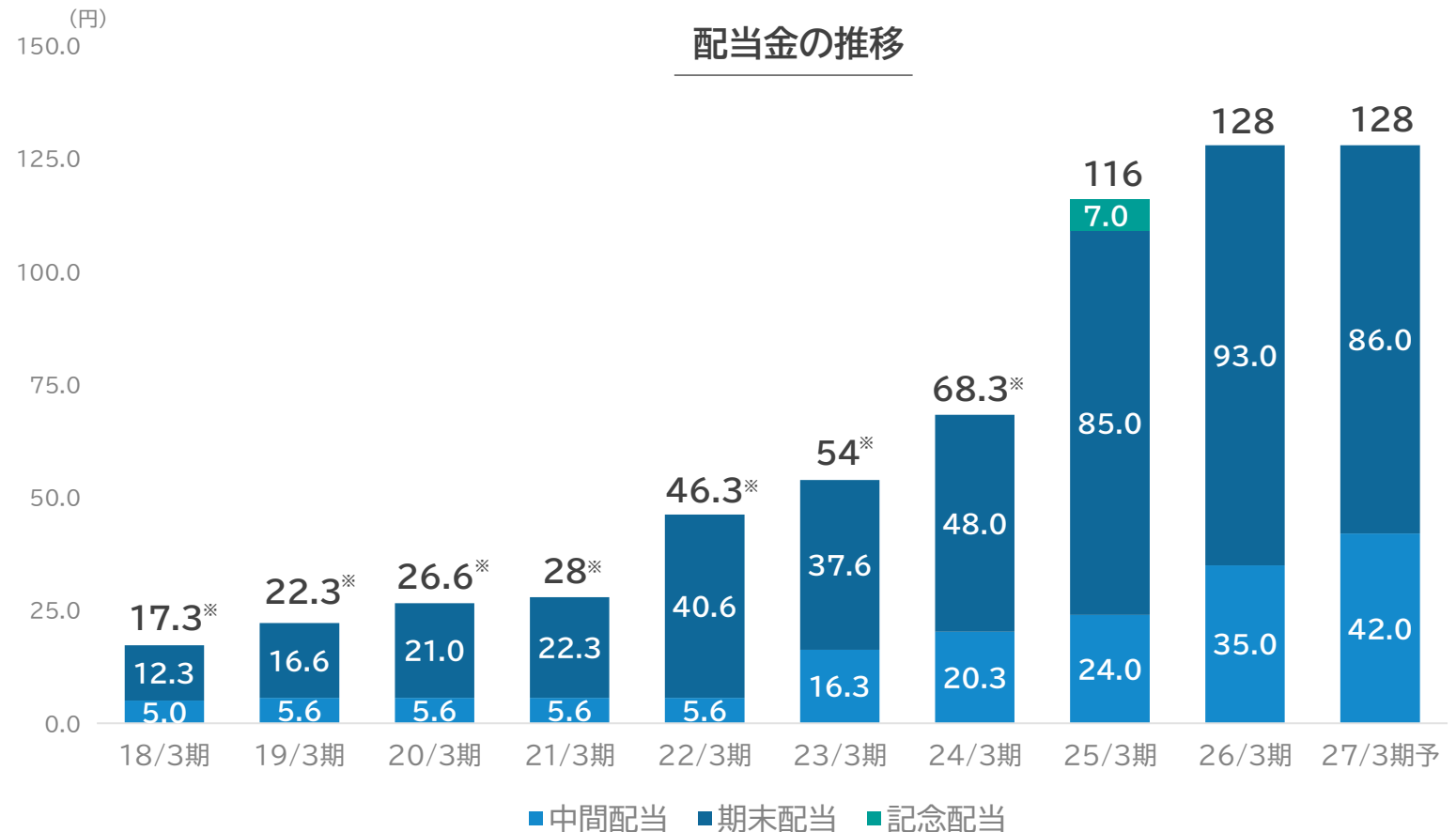
- これまでは「連結配当性向40%を目安とする」ことを基本方針に据え、2026年3月期は期初の配当予想(104円)に対し24円を増配し年間128円の配当(配当性向40.1%)を実施予定。
- 第二次中期経営計画に基づき、2026年度より配当方針を「DOE6%+累進配当」へ変更
2027年3月期配当予想：128円を計画

配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、効果的な業務運営による収益力の向上、財務体質の強化を図りながら業績に裏付けられた成果の配分を行う

具体的な指標

第二次中期経営計画期間においては、「DOE(純資産配当率)6%+累進配当」とすることとし、利益変動に左右されない安定的な配当を実施



※ 2024年4月1日より株式の3分割を実施しております。過去の配当金につきましては、分割後の株式数にて算出しております。

資本コストを意識した企業価値向上に向けて

- 当社の想定する株主資本コストは、長期金利上昇と投資家の期待リターンも踏まえ、7~8%程度と認識
- ROEは毎年10%以上で推移、エクイティスプレッドはプラスの状態を維持

2026年度からの第2次中期経営計画にて、主要財務KPI・資本コストROE、政策保有株目標を見直し

主要財務指標

自己資本比率	50%前後
PBR	1倍以上
ROE	12%以上

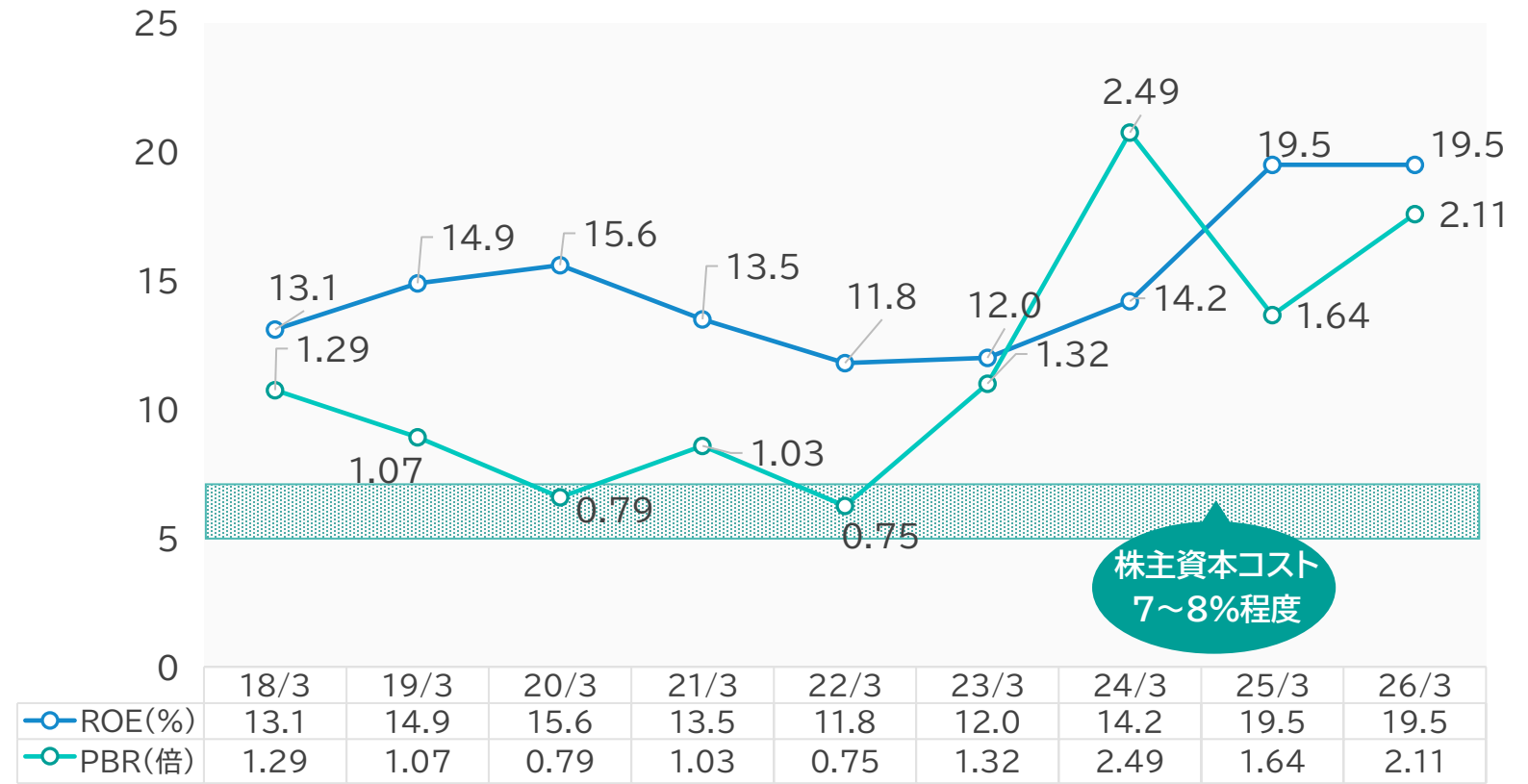
株主資本
コスト



ROE

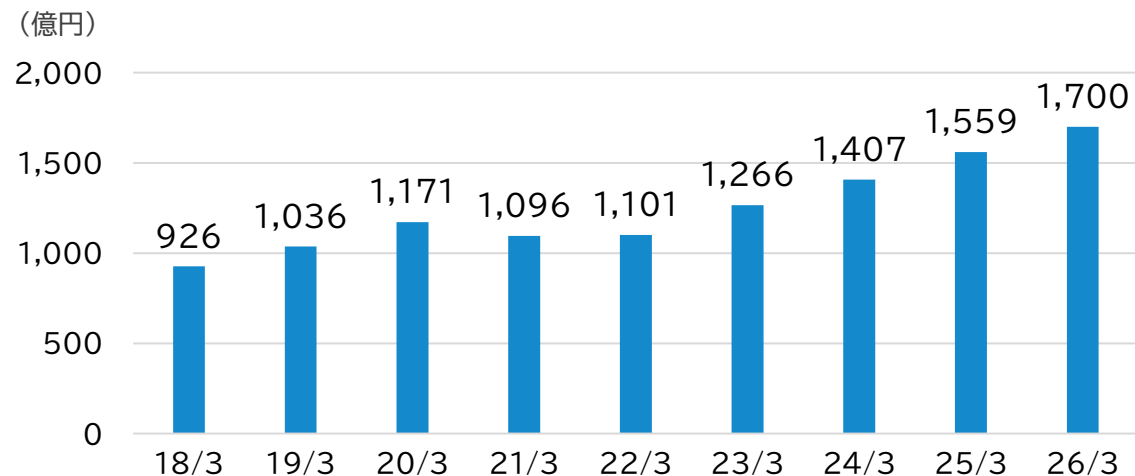
PBR

安定的かつ継続的に
1倍以上を維持

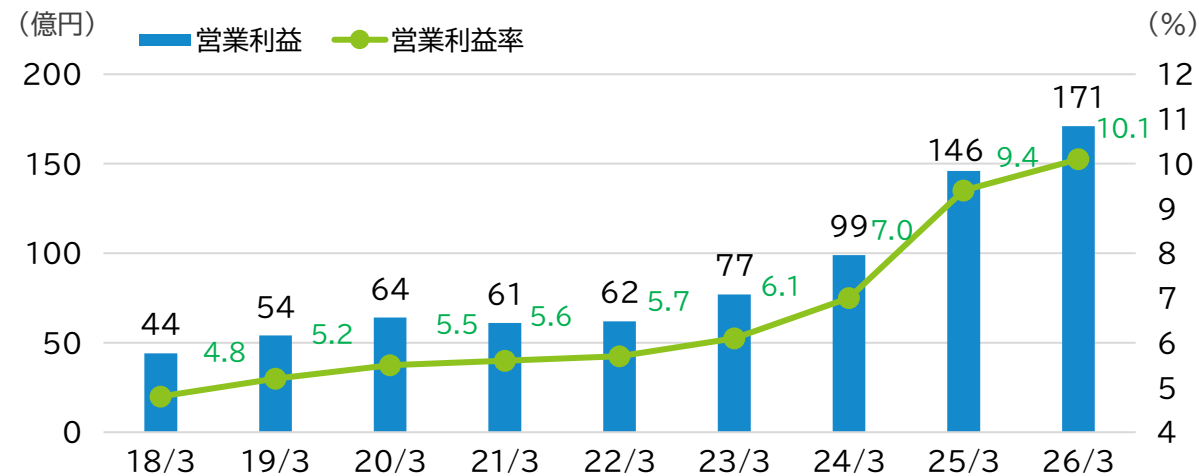


<連結>

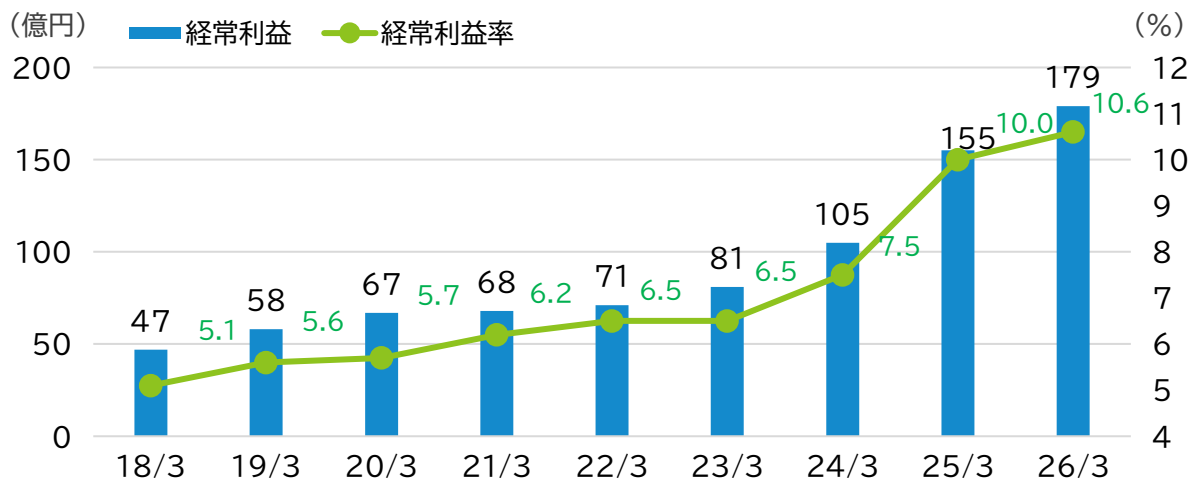
売上高



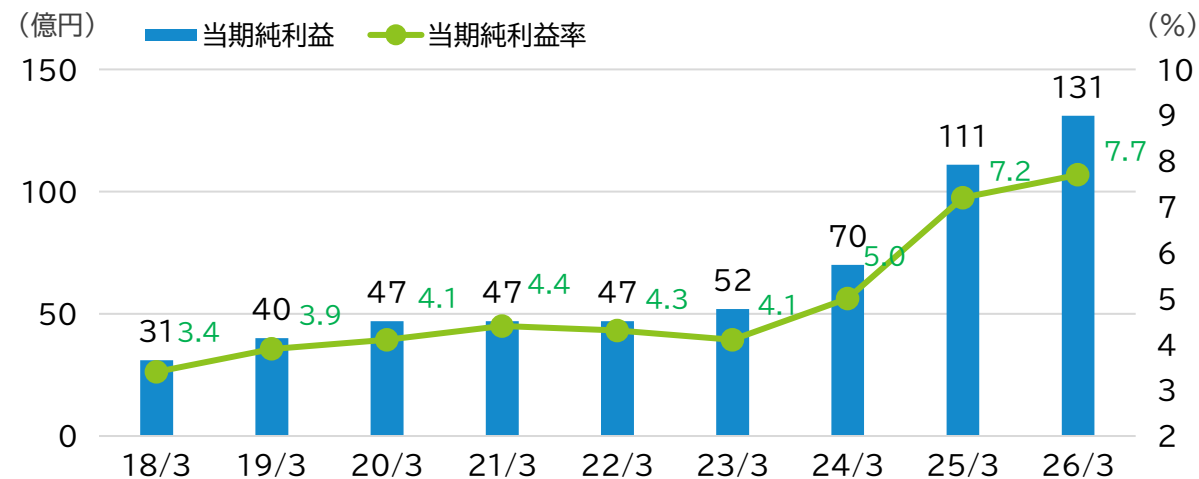
営業利益



経常利益

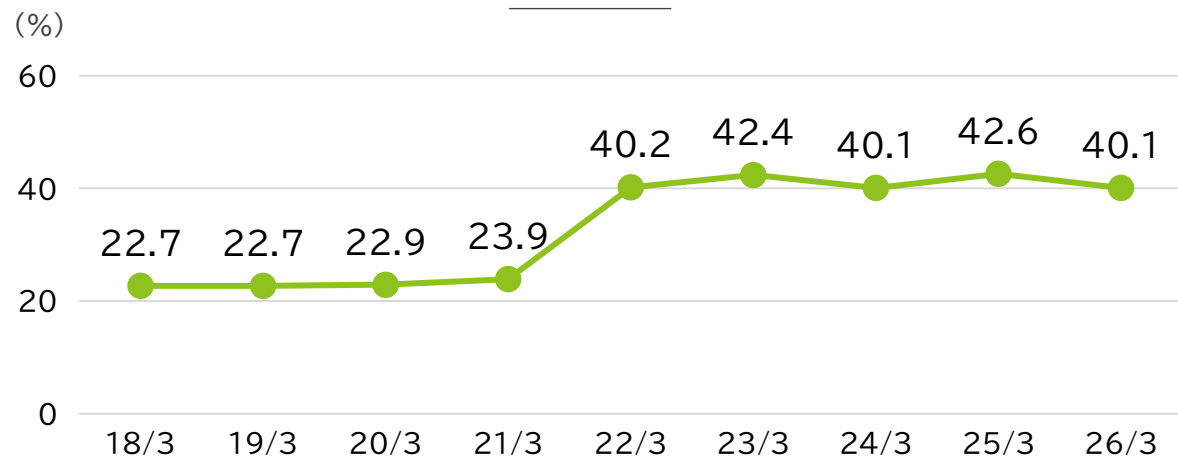


当期純利益

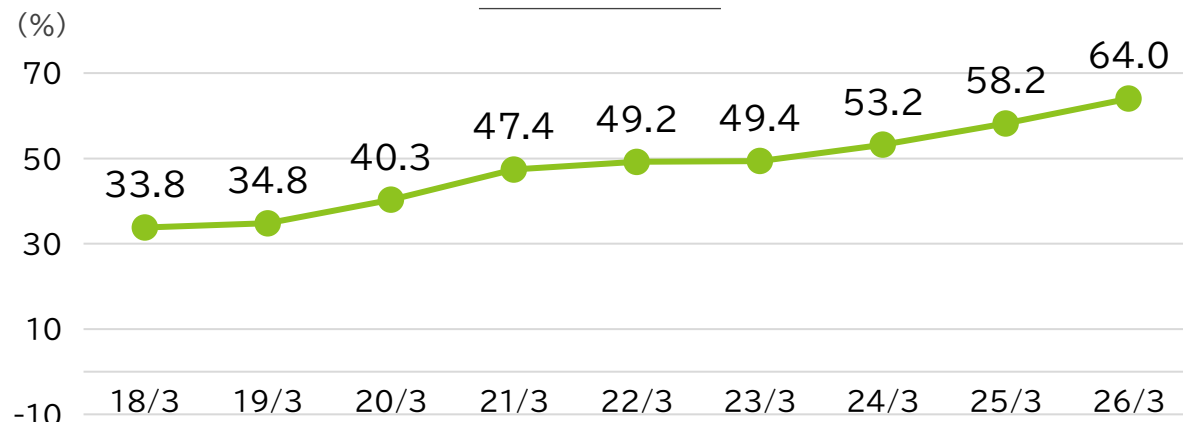


<連結>

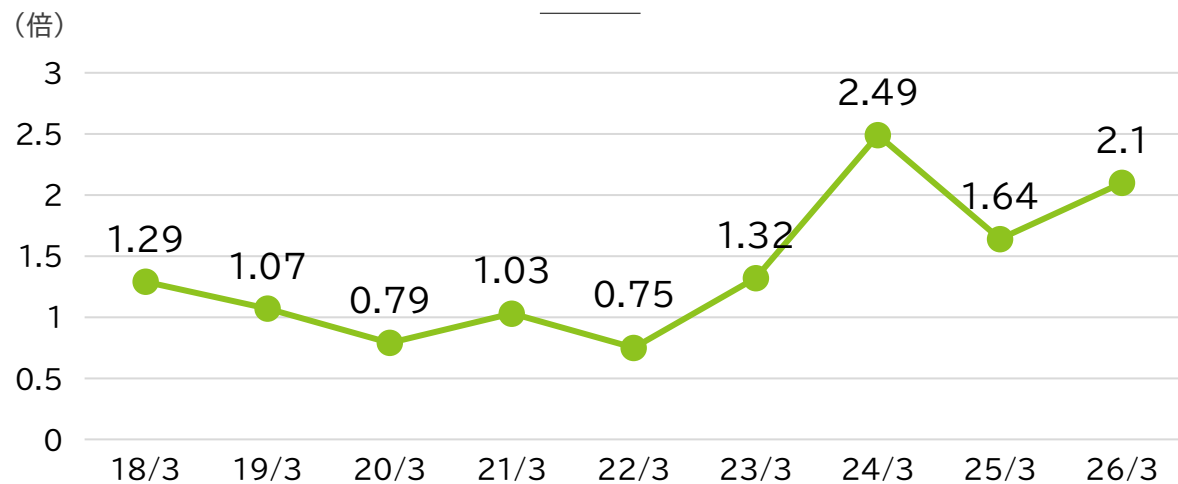
配当性向



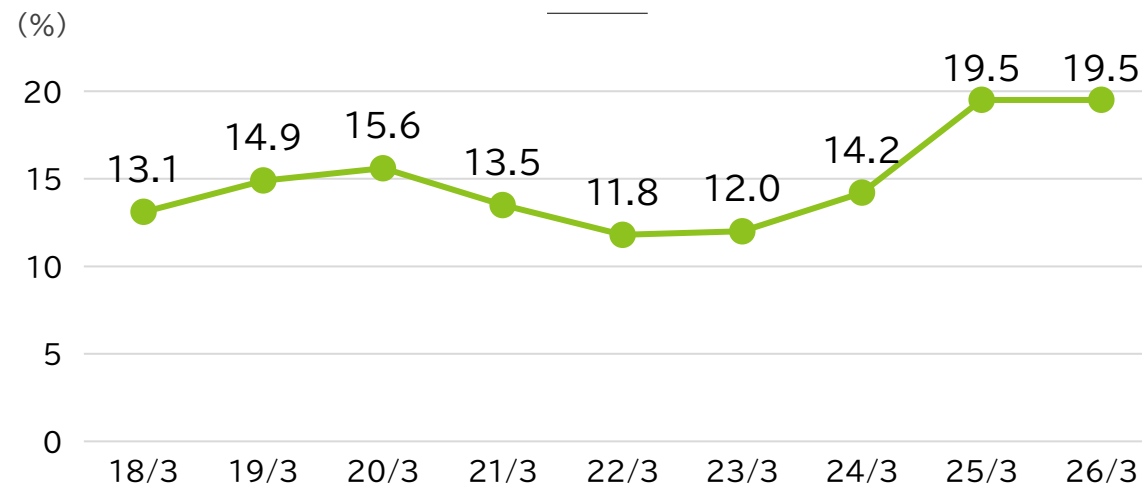
自己資本比率











PBR



ROE



「持続可能な社会の実現への貢献」に向け、マテリアリティ(重要課題)を追求

マテリアリティ	アクションプラン	対応するSDGs
 <p>地球にこちよい 持続可能な脱炭素社会の実現とそこに暮らす人々の快適さの両立を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化の推進 再生可能エネルギーの普及 資源の再生、適切な処理 事業活動における環境負荷の低減 	
 <p>社会にこちよい レジリエントな社会を実現する安心安全で快適な空間づくりを目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全で高品質な空間づくり 建物・設備の性能維持、長寿命化 	
 <p>人にこちよい 多様な人材が集まり活躍できる企業グループを目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる人材の活躍と生産性向上 品質・技術力の向上 安全と健康の維持向上 	
 <p>健全な経営基盤の強化 社会およびステークホルダーの皆様からの期待に応え、信頼される企業グループを目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンスの強化 コンプライアンス遵守 ステークホルダーとの対話 	

➡ 取り組みの成果は、当社「サステナビリティ」サイトに掲載

【免責事項】

※本資料に記載している業績予想、計画値、見通し等将来に関する情報は、本資料の公表日現在において当社が入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なった結果となる可能性があります。従いまして、本資料のみに依拠した投資判断は、くれぐれもお控えくださいますようお願いいたします。

※本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

※本資料は金融商品取引法上の法定開示書類ではなく、その情報の正確性や完全性を保証するものではありません。

※本資料は、投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成しており、投資の勧誘を目的としたものではありません。

【お問い合わせ先】

経営戦略本部 広報・IRグループ

MAIL:ir@totech.co.jp



東テックグループキャラクター

こちい